

## ウダイカンバ *Betula maximowicziana* Regel

### 【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 12。温帯性の樹木で、愛知県は分布域の南限にあたる。県内では生育地、個体数ともに少ない。

### 【形態】

落葉性の高木。幹は高さ 30m、直径 1m に達する。樹皮は灰白色または橙黄色で、横に紙状にはがれる。枝には長枝と短枝がある。葉は長枝には互生、短枝には 2 枚が対をなしてつき、葉柄は長さ 2~6cm、葉身は広卵形で鋭尖頭、長さ 8~14cm、幅 6~10cm、基部は深い心形となり、辺縁には凸端に終わる不ぞろいな細鋸歯がある。葉の表面は濃緑色、裏面は淡緑色~帯黄緑色で腺点がある。花は 5~6 月に新葉の展開とほぼ同時に咲き、雄花序は長枝の先端に数個つき、下垂して長さ 10~14cm になり、雌花序は短枝の先に 2~4 個つく。果穂は秋に熟し、果実は扁平で幅の広い翼がある。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：1 富山 (小林 45493, 1993-7-24)、2 豊根 (芹沢 81947, 2007-8-4)。西：5 稲武 (日比野修 4094, 1997-8-10)、20 足助 (芹沢・水野 260, 1985-8-28)。4 津具にもあるという (小林 2006)。県東北部の山地に点在するが、個体数は少ない。

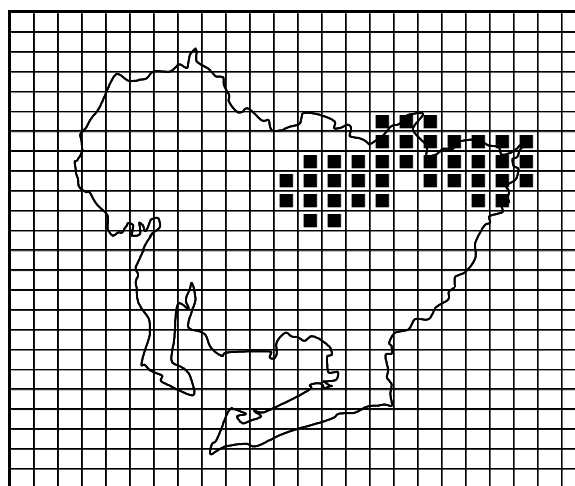
#### 【国内の分布】

北海道および本州中部以北。長野県まで行けば、あちこちに生育している。

#### 【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

陽性の樹木で、山地の適湿な攪乱地や伐採跡地などに生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況／減少の要因】

大形の樹木だけに成木は少なく、ほとんどが単木状に生育している。林道わきなどに生育しているものは、改修等の際に伐採されることがある。

### 【保全上の留意点】

陽樹であるため、個体群の存続には適度の攪乱が必要である。その一方で、希少種であることを意識しない伐採によって失われないよう、個別的な保全が必要である。

### 【特記事項】

日本産カバノキ属の中では最も大きくなる種であり、また良質な材の得られる有用樹である。

### 【引用文献】

小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.124. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

### 【関連文献】

保木本 II p.297, 平木本 I p.57, 平新版 3 p.111.